

平成 21 年 3 月期連結決算発表 ～食品部門は増収減益、バイオ部門は増収増益～

平成 21 年 3 月期決算概要

当期における我が国経済は、年度前半は一昨年来の原油など諸資源や穀物価格高騰の影響を受け減速感が高まりました。9 月以降、米国発の金融危機が世界経済に波及し、海外市場を中心に需要が急減し企業収益の更なる減少と雇用調整の動きが広がり、景気後退の厳しさが急速に拡がりました。

このような厳しい経営環境の下で当社グループは、年度前半のエネルギー費や原材料価格の高騰が企業努力では吸収できるレベルを超えたため、食品・バイオ両部門ともに順次製品価格の改定を実施しました。併せて生産効率の向上、研究開発体制の強化による新製品上市や新規市場の開拓などを促進してまいりました。

売上高につきましては、食品部門は、イースト及びパン品質改良剤・発酵液等のイースト関連製品や、フラワーペースト等の販売量は前年を下回りましたが、油脂加工品（バタークリーム）は一昨年の新工場棟建設を踏まえた拡販施策により、また総菜は新製品シャキシヤキシシリーズが好調で、前年を上回りました。バイオ部門は、免疫製品やバイオニュートリショナル製品等の売上が前年を上回りました。また、実験動物や養魚用飼料の販売量は減少しましたが、ペットフードなどの飼料受託の売上は前年を上回りました。その結果、両部門とも売上高は前年を上回ることができました。

しかしながら、収益につきましては、食品部門は主要製品の販売量減少と製品価格改定が原材料価格高騰に追いつかなかったこと等により減益、バイオ部門は診断薬関連の売上増加と経費削減等により増益になりました。

連結業績につきましては、売上高は 640 億 8 百万円（前期比 103.4%）と増収になりましたが、経常利益は 17 億 59 百万円（前期比 89.9%）、当期純利益は 8 億 31 百万円（前期比 73.5%）と減益になりました。

平成 22 年 3 月期 今期連結業績予想

平成 22 年 3 月期におきましては、引き続き営業体制の強化や、製造・販売・管理にわたるコスト吸収策の推進により既存事業の収益基盤を強化すると共に、新製品の上市を促進してまいります。また、アメリカ・ヨーロッパ・アジアの各海外拠点を足掛りに、海外事業の拡大を推進してまいります。一方、原材料価格の変動リスク、及び消費者の低価格志向は依然先行き不透明な状況にあり、当社の収益に影響を与える恐れがございます。

平成 22 年 3 月期の連結業績につきましては、売上高は 631 億円（前期比 98.6%）、経常利益は 18 億 50 百万円（前期比 105.1%）、当期純利益は 11 億 50 百万円（前期比 138.2%）を予想しております。

以上